

油屋町くんち瓦版

編集担当 山之内 安一
写真提供 Saori 山田

十月九日 秋晴れに生える

青空の下、船頭が綱を打ち、川船が舞う

平成二十八年十月九日は気持ちのいい天気になった。昨日の鬱憤を晴らすように、みんな、くんちを楽しんだ。朝五時に起こしシャギリが回ってきた。七時十五分頃、御旅所に出発した。



御旅所が終わると、諏訪神社へ。青空の下、川船の赤い紅葉が大きく回った。すべての場所が終わった。

平成28年10月9日 第9版

中日の分も庭先 頑張る

天気がよかったので、後日の庭先は予定通りに進んだ。丸山付近は心配していたが、他町と鉢合わせになることなく、福砂屋の前での綱打ち、走り回しもできた。後日の庭先を全



部回り終えた後、中日の回れなかったところを回った。しかし、今回は新大工方面には行けなかった。午後八時頃、庭先を終了。ハマクロスで待っているみなさんの前で、船を回して、油屋町へ帰って行った。

川船油屋町に帰る

アーケードの出口で囃子の子供達全員を船に乗せた。囃子の子供達はみんないい顔をしていた。町に帰



る川船はみんなの唄う根曳船唄に包まれている。今回は一番から四番まで、みんな



なすっかり唄っていた。町に帰って、最後の演技が行われた。綱打ちの時、船頭を支える両親の姿にみんな喜び、囃子の子達全員が乗った川船を回す根曳たちに喝采を上げた。いろいろ辛いこともあったが、油屋町のくんちは笑顔で終わった。

